

人形劇団 クラルテ

おきやく、おことわり?

Used by permission of Adams Literary through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

原作／『おきやく、おことわり?』『おとまり、おことわり?』(岩崎書店刊)
ボニー・ベッカー文、ケイディ・マクドナルド・デントン絵、横山和江訳

企画／鶴巻靖子 脚色／宮本敦 演出／奥洞昇
美術／永島梨枝子 音楽／一ノ瀬季生
制作／古賀恵子 出演／鶴巻靖子・藤田光平



2024年5月6日(月・祝) 大和高田さざんかホール(小ホール)
開演①AM11:00・②PM2:00
(30分前開場)

主催／大和高田市文化会館
後援／奈良県保育協議会・奈良県幼児教育研究会・奈良県私立幼稚園連合会

入場料(税込)：全席指定席 前売1,700円/当日2,000円
さざんかホール友の会会員 前売のみ1,500円(1会員4枚まで)

*3歳以上有料。3歳未満でもお席の必要な場合はチケットをお買い求めください。
※人形劇団クラルテとのかい割引あり

《ご予約・お問い合わせ》大和高田さざんかホール TEL 0745-53-8200 FAX 0745-53-8201

人形劇団クラルテ

TEL 06-6685-5601 (AM10:00~PM5:30 日・祝休み) <http://www.clarte-net.co.jp>

近鉄大和高田駅より徒歩10分／近鉄高田市駅より徒歩15分／JR高田駅より徒歩4分

チケットお取り扱い

さざんかホール 0745-53-8200

人形劇団クラルテ 06-6685-5601 (10:00~17:30)
日・祝休み

チケット発売：友の会先行3/13(水) 一般3/16(土)

*前売り券完売の場合、当日券はございません。お早めにご予約ください。

〒635-0082 大和高田市本郷町6番36号
sazanka@kcn.ne.jp

おきやく、おことわり?

Used by permission of Adams Literary through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

原作／『おきやく、おことわり?』『おとまり、おことわり?』(岩崎書店刊)
 ボニー・ベッカー文、ケイディ・マクドナルド・デントン絵、横山和江訳
 企画／鶴巻靖子 脚色／宮本敦 演出／奥洞昇 美術／永島梨枝子 音楽／一ノ瀬季生
 制作／古賀恵子 出演／鶴巻靖子・藤田光平

大きなクマと小さなネズミの物語。

森の家に独りで暮らすクマは、毎朝同じ様に目を覚まし、同じ様に椅子に座り、同じ様にミルクティーを飲みます。ただただ静かに誰にも邪魔されることなく“キチンと”生活している事が何よりの幸せ。今日もミルクティーを淹れ、そのあまい匂いに満足気です。

そこへミルクティーのあまい匂いに誘われて、一匹のネズミがやって来ました。このネズミは何にでも興味津々、好奇心でいっぱい。

ネズミはクマの家の扉をノックします。が、大事なお茶の時間を邪魔されて、クマは強く追い返します。

「おきやく、おことわり!」

それでもネズミはあきらめません。追い返されても追い返されても扉をノックし続けて、とうとうクマも根負けしてネズミにミルクティーを淹れるのですが…。

大きさも性格も
 “全く逆”的二人の
 おかしなお茶会が
 始まります。
 さてさて、どうなる
 ことやら…。



 大和高田さざんかホール

〒635-0082 奈良県大和高田市本郷町6-36

TEL.0745-53-8200

- 近鉄難波駅から大和高田駅まで約40分
- 近鉄大和高田駅より徒歩約10分
- JR高田駅より徒歩約4分
- 近鉄高田市駅より徒歩約12分
- 奈良交通バス天神橋駅下車すぐ

★お車でお越しの方は市営駐車場（JR高田西側・駐車台数200台・有料）をご利用下さい。

<https://www.city.yamatotakada.nara.jp/sazankahall/>



この人形劇は「おきやく、おことわり?」と「おとまり、おことわり?」の2冊の絵本から創作しました。どちらも、クマのところへネズミが訪ねて来るお話です。絵本ではネズミが訪ねて来る事で、自身の生活リズムを崩され、慌てふためきながらも“新たな幸せ”を見つけるクマが描かれています。

では、そんな風にクマを導くネズミとは一体どんな“人間”なんだろう?そんな興味にかられ、人形劇ではネズミのドラマも膨らませました。クマに追い出されても追い出されても、決してあきらめないネズミ。その強さが少しづつ、クマの心を動かします。

自分をあきらめない強さと、相手をあきらめない強さ、それは人間をあきらめない強さです。

現代、人間関係が希薄だと感じる事は多々あります。相手は自分を受け入れてくれるだろうか?と怖れる気持ちが過度に働いてしまう。それは、子どもたちの友達関係の中にまでも見られます。

あきらめずドアをノックし続ける小さなネズミと、心動かされる大きなクマ、二人だけの人形劇に“人間をあきらめない強さ”を込めて届け演出／奥洞昇